

●MITの研究者二人により7年前に発表された論文が今、見事に的中しつつある中、凡そ一世紀程も前にこの日本でも、今日の事態を予見していた人物がおりましたので、引用ついでにその言行録から拾ってみる事に致します。阪急電車の創設者で宝塚歌劇の産みの親としても知られ、朝ドラの主人公のモデルともいわれる**小林一三氏が遺したもので、「世の中は変わる。非常な勢いで変わってゆくのだから、どう変わるかを早く見通して、それに適応して行った人間が勝ち…」**と述べ、又別に「**百歩先の見える者は狂人扱いに、五十歩先の見える者は多くは犠牲者となり、十歩先の見える者が成功者**で、現在が見えぬのは落伍者だー」とも語っています。この両者を併せて読み返すと、米国の学者達の研究発表が、正に絶妙のタイミングであった事が納得できるのです。**時期尚早に過ぎる「先見の明」**は、占い師と同列の、尤もらしい世迷い事として相手にされないか、徒に社会不安を煽る**デマゴーク(扇動者)或いはオーダーブレイカー(秩序破壊者)として社会的に抹殺されかねない**—だから、時代潮流を逸早く読み、思考を巡らし、ここぞという時に備え、適切な対策を講じておく事は肝要だが、その時期は早すぎても遅すぎてもいけない。それが最も活かされる**タイミングこそが重要なのだ**—という事なのでしょう。鉄道とエンタメを軸として、一大コングロマリットを築き上げた経営者に相応しい洞察力と云えます。●処で、16年11月公開の『**この世界の片隅に**』という、戦時下の広島を舞台にしたアニメ映画をご覧になった方も多いかと思いますが、作品のエンドロールに、沢山の人々の名前が載っていた事に気づかれたでしょうか。この作品は、**氏名の掲載を条件として制作資金を集めたクラウドファンディング=CF**(本例では、一般大衆から資金を調達する仕組)で完成に至った映画でした。しかも想定額の二倍近い凡そ4千万円が、2ヶ月程で3千3百人余りから拠出されるという、正に予想外の展開だった様です。未だ観てもいない作品に対し、1万円以上払った人が3千名余りも存在した訳ですが、ポイントは、**こうした資金調達方法が成功したという事実**です。これは、金融当局が、この処使い始めた「事業性」さえ見込めれば、不動産や美術品等の担保がなくとも資金提供・調達の途は開かれる—とする、脱担保型金融の象徴的な事例と云えなくもないのですが、事業性とは、平たく言えば「将来性」の事であり、一般大衆にそれを見極める眼力があつたとも思えません。本事例は事業性云々よりむしろ、**資金集めの技法=CF=にこそ注目すべきか**と思われれます。●様々議論はある処ですが、これまでのビジネスモデル(BM)を支えてきた**生産力と購買力=供給と需要⇒つまり人口=の急速な低下は、凡ゆる分野に影響を及ぼし始めています**。例えば金融業界・預金集めに精を出しても借り手が居らず、実入りは細る一方。必然的に多店舗展開・多人数配置の高コスト型業態は維持不能となり、統合再編やCF、フィンテック(**預貸業務のIT化=中国式「3・1・0システム」=申込み3分・受入れ処理1秒・コスト0円**)に活路を求める以外打開策がない程、在来型BMが死に体状態となる中、某都銀では、一県一店舗(固定費と人件費の究極的圧縮)に近々着手するとの話も…●潮目は、確実に変わったのです。当局が**EUの圧力と人口減**に押され、「**同一/同一の導入**」と「**生産性UP**」の旗を躍起になって振っている理由もここにあります。「同一/同一」の**先にあるのは、明らかに「職務給型人事制度」へのシフト&労働市場の流動化**(生産性向上?の一要素に位置付け)ですが、一方で、国が誘導する方向とは**全く逆の動き=職務ではなく、人ベースのシステム再構築を図る動き**=も出てきており、大変興味深い処です。次号では、周回遅れの職務給ではなく「応募が増え人が育つ**職能給**」への新たな取組み、にも迫ってみたいと思います。